

## 金谷町

### 地形概況

大井川右岸の旧河道をもつ扇状地、安田原から南にのびる牧の原台地と周辺の丘陵地、八高山にかけての大代川流域山地などからなる。菊川ぞいの谷底低地と河岸段丘の形成も顕著である。神谷城・切山などの地すべり地も知られる。

### 地質概況

北部は砂岩・泥岩・砂泥互層からなる三倉層群、安田原から南では牧の原台地がこの表層の平坦面は、砂礫層が堆積する。砂岩と頁岩の互層からなる瀬戸川層群や倉真層群、砂泥互層の掛川層群などが基盤となって、台地周辺の丘陵地を形成する。

### 気象概況

年平均気温は推定 14.5°Cと低く、牧の原台地では遠州気候区に入り、台地と平坦地との温度差が大きい。年平均降水量は推定で 2,400mm と全県の平均であって、春から夏季にかけて全降水量の約半分に達する。

### 災害事例 地震

- 1944年12月7日（昭和19年）東南海地震 M=7.9  
県中・西部の被害が大きかったが、当地では比較的軽微で震度5程度であった。
- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震 M=8.4  
全県下に被害があったが、当地では金谷宿で家屋倒壊し圧死者も出た。また土地が亀裂して泥水を吹き出した。本町より河原町迄皆潰れという。しかし菊川は軽微であったようである。震度は川原町で6~7、金谷宿で6、菊川で5であった。
- 1707年10月28日（宝永4年）宝永地震 M=8.4  
全県下に被害があった。金谷宿では午下刻に大地震があり町中大破したが、全壊は5戸で人馬に怪我はなかったといわれる。震度は6である。

### 災害事例 台風

- 1982年9月12日（昭和57年）台風18号  
全県下風水害があり、当地では行方不明1人、負傷者1人、床上浸水273戸、床下浸水1,081戸であった。
- 1954年9月18日（昭和29年）  
全県下特に中・西部で風水害が大きかった。被害は全壊3戸、流失2戸、床上浸水1,000戸、堤防決壊3箇所、橋梁流失3箇所などである。
- 1910年8月7日（明治43年）  
全県下特に中・西部で被害が大きかった。金谷での4日間(7~10日)の雨量は854mmに達した。
- 1828年8月10日（文政11年）  
洪水で大井川その他河川の堤防が破れ、人家流失し人畜の死傷も多数あった。田畑百余町歩が荒廃した。

## 災害事例 豪雨

- 1959年8月26日（昭和34年）  
当地の被害は行方不明1人、全壊5戸、半壊7戸、流失26戸、床上浸水2,344戸、  
床下浸水2,400戸などであった。
- 1941年7月12日（昭和16年）  
県下全般に大雨となり、浸水家屋は、床上100戸、床下400戸であった。
- 1938年8月2日（昭和13年）  
金谷で日雨量310mmに達した。